

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所属 薬学部

氏名 塩田清二

作成日 令和5年8月28日

1. 教育の責任

本学薬学部での教育活動ですが、自身が担当した本年度の教育実習科目は以下のようになります。

- 1) 早期臨床体験実習、必修、1単位(45時間)、1学年
- 2) 解剖学、必修、2単位(30時間)、1学年
- 3) 生理学、必修、2単位(30時間)、2学年
- 4) 生理解剖学実習、1単位(45時間)、2学年
- 5) 医療薬学チュートリアル演習、1単位(30時間)、2学年

本学保健医療学部において

- 6) OP, TP 生理学演習、1単位(45時間)、1学年

自分自身の所属は機能形態で講義実習は解剖学・生理学担当です。解剖学及び生理学の講義及び解剖生理学については主たる役割を果たしています。また生理学の講義や演習などについては同じ教室の山崎准教授と分担をしています。講義資料の作成や試験問題の作成や成績評価などは自分の担当するところを行なっています。また早期臨床体験実習や医療薬学チュートリアル演習については分担者として実習に参加し、学生評価も行なっています。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念・目的

ふれあいグループ及び湘南医療大学の建学の精神「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」ということが教育理念であり、学部更に学部ディプロマ・ポリシーに、「健康福祉に関する諸課題に対して、心身機能や疾患特性、個人の考え、地域の特性、人的・物理的・制度的 環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点でリハビリテーションの専門職としての実践ができる。」とあります。この学部ディプロマ・ポリシーにおけるヒトの体や心を全人的な評価と支援の視点で診るためには、心の教育の重視・真心の確立からの教育、または授業への取り組みというのが 教員に課せられた重要な課題であると考え、その課題をクリアーするための努力が必要であると思います。この心を獲得するためには、人格的な資質を育むことはもちろん、豊かな教養により醸成された人間性を身につけることが不可欠です。必然的に実践が求められる多職種協働を、医療と福祉の総合大学である本学で経験することで、他者の考えを認めつつ多角的に物事を考える力を身に付けることが自分自身の理念であり目的であると考えています。

2) 理念をもつに至った背景

自分の担当する授業は、学部の特に関わり、生理学や解剖学など医療系の専門的な基礎科目及び早期体験実習など基礎的な技能実践に係る科目が多い。基礎医学で学んだ知識を高め・ヒトの体や心を診る力を育てることは重要であり、学生が将来薬剤師として臨床実習や臨床現場で高い臨床技能を備えるための基礎的な知識を習得させる必要がある点において基礎的な科目の習得は大変重いと痛感しています。しかし、ある意味では「高い臨床薬剤師としての技能を発揮するための学習過程は、将来なろうとしている職種とは直接関係がない」と考える学生がいることは事実であり、そのような学生に対して、いかに基礎医学の知識を踏まえたヒトの体と心を診る力の向上とその知識や技能を表出することが大事であるかを、理念に基づき実践のイメージ化につながるデモンストレーション等を通して、学生指導に取り組む必要性があるというのが理念を持つに至った背景です。

3. 教育の方法・戦略

このような理念・目的を実現するためには、多種多様な方法が考えられます。その中でも私自身が実践している方法を述べます。まず、解剖学や生理学についてはスライドを中心とした座学で人体の構造と機能を理解させます。また講義の中で講義の中身をどれくらい学生が理解しているかについて小テストを行い、また講義の課題などを出して学生の自主的な学習を促します。さらに解剖生理学実習を行い、学生自らが動物を解剖し、臓器の位置関係や機能などについても人体の構造及びその機能の理解を深めるように教育指導をしていきます。

具体的な方法

- 1) 教授方法については、「カラー人体解剖学 構造と機能」(西村書店、共訳)を講義のテキストとして学生が購入し、その中で記載されている12の器官系について各章に記載されている図表をパワーポイントとして作成し、それを用いて講義を行なっています。パワーポイントは図表のみならず、本文に記載されている重要事項については特にページを割いて重要なポイントを赤字やゴシックで示し、学生が学び理解して覚えるように丁寧に解説をしながら講義を行なうようにしています。
- 2) 授業の工夫について、上記に記載されているようにテキスト全てについて大切な部分を学生が座学講義を受けて理解できるような講義を行うとともに、講義の最後に小テストを行い、重要な事項について学生が理解できているかどうかをチェックします。さらに、講義スライドの最後に、その章で学ぶべき必須事項を記載し、学生が自宅で復習して解剖学や生理学の重要ポイントを自己学習する項目も

付けており、自学自習の習慣を学生さんにつけさせ、ひいては国試対策にもなる
と考えています。

- 3) 開発した教材としてはテキストの中から必要事項を抽出して作成したスライド教材
があります。また、薬学生のためにどのような知識を持つ必要があるかどうか
は毎年チェックし、過去及び最近の国家試験問題を参考にして国試対策を踏まえ
て講義資料を改変する努力もしています。
- 4) さらに現在、「薬学生のための解剖生理学テキスト」(丸善)を自分が監修者と
なり本の作成を行なっている。特に新コアカリが2年先から実施されるため、そ
れに即した解剖生理学のテキストを作り出版する必要があることから、来年の
春の出版に向けて鋭意努力しています。すでにその一部はビオフィリア(電子
版) Vol112, No1, 2023 に出版されています。

4. 学習成果

- 1) 学生からの授業評価やコメントについては、特に解剖学を学ぶ困難さが指摘されている。
その原因は解剖学用語を理解して覚えるための困難さが主な原因だと考えています。た
だ、解剖学用語は一般の薬学領域の用語とは異なり難解であるので、それをある程度我
慢して理解してもらわなければ学習できないこととなります。自分としてはできるだけ平易
な言葉を用いて分かりやすく解剖学の理解をしてもらうように努めています。
- 2) 自分は今まで医学部で40年近く解剖学を講義、実習してきたことから、薬学生にとって理
解できるための解剖学の中身の検討をする機会ができて良かったと思っています。特に
現在、「薬学生のための解剖生理学テキスト」を作成している過程で、薬学部での講義を
行なってきたことは大変プラスになっており、薬学生にとって役立つ解剖生理学のテキ
ストを作成し、新コアカリに向けた対策をすることができると考えています。

5. 改善のための努力

- 1) 解剖学をいかに薬学生に理解させるか
まずは解剖学用語をわかりやすく学生に講義して理解させることが必要であり、そのた
めにプリントなどを活用して理解を促す。
- 2) 解剖生理学をいかに薬学生に理解させるか
まずは丁寧に講義をしていくことが重要であり、さらに解剖生理学実習を通して、実際
に動物個体に触れて臓器を理解すること、さらにヒトの骨標本を手にして人体の骨格を学
ぶことなど、実物に触れて疑問を持ちさらに自己学習をして理解を深めることを行う。

6. 今後の目標

今後の短期・長期目標についてですが、まずは短期目標としては「薬学生のための解剖生理

学テキスト」を来年春の新学期までに出版することです。長期目標としてはこのテキストの有効活用を考えています。この新テキストは、新コアカリ対策に準拠したテキストであり、国試対策としても役立つことは間違いない。長期目標としては、解剖生理学テキストに準拠した試験問題集の出版など、国試対策に向けた努力も必要と考えている。まずは来年度にテキストを出版し、さらに次のステップを共著者および出版社と協議しながら考えていきます。

【添付資料】

- 1) シラバス: 確認可能なため添付せず
- 2) 開発教材: 学生講義のためのパワーポイントについては講義配布資料に掲載済み
- 3) 学生アンケート: 教務に学生アンケートは提出済み
- 4) テスト原本: 過去のテストの内容については「まなば」に掲載予定
- 5) 講義配布資料: 学生個人に配布をしている。「まなば」に掲載予定
- 6) 参考資料: 「薬学生のための解剖生理学ノート」 塩田清二監修 Biophilia Vol 12, No1 2023